

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」
領域開拓プログラム最終評価結果表

課題	C：テクノロジーの革新と日本の美学および感性
研究テーマ名	響き合う空間、励起される美意識
研究代表者	古川 聖
所属機関・部局・職	東京藝術大学・美術学部・教授
研究成果の総合評点：B	
研究成果に係る所見	
<p>公園や庭園といった大きな空間に人間が入り込んでおこなう表現行為を通して、新しい美意識のありように考察を加える本研究は、ワークショップの開催や楽器の制作など実践的な取り組みを意欲的に展開してきた様子は十分にうかがわれる。受け身で感じるのではなく、身体で体験することが重要なことが分かる研究である。核となった2つのプロジェクト、「サウンド・ドローイング」および「ソニックウォーク」から導き出された「文化的習慣」や「意識」への着目には一定の成果が見出せると考えられる。しかし昨年度末から今年度にかけては、予定していたワークショップの中止があり、未完成のまま中断している感はいなめない。対面型からオンラインを組み合わせた方法へと変更をずるとしているが、報告書からはうかがえない。むしろこの時期こそ、3年間の蓄積のまとめとして4年目に新しい時代の空間と音楽の実践を積極的に提供できたのではないかと思われる。人間のことばによるコミュニケーションに隠れてしまった音の世界が、都市空間や伝統的庭園空間のなかで甦ってくるのではないだろうか。GPS衛星測位システムとスマートフォンを組み合わせ、特定の空間に入りながら音環境システムを開発した成果は大変おもしろい。人との接触を避けながら、空間と人間を音によって結びつける。音が建築や地勢に反響して共鳴している現象は、人間の喧噪が途絶えた世界でこそ甦ってくるのではないか。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、期待どおりではないが一定の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い